

プロジェクトマネジメント知識体系を学ぶための教材開発

Development of Teaching Aid Materials to Learn Project Management

Body of Knowledge

大島 直樹

Naoki Ohshima

山口大学大学院技術経営研究科

Graduate school of Innovation & Technology Management, Yamaguchi University

Email : nohshima@yamaguchi-u.ac.jp

PMBOKは版を重ねるごとにプロジェクトマネジメントにおけるステークホルダーの位置づけが高くなっている。平成24年2月に公開されたPMBOK第5版の評価版では、ステークホルダーマネジメントに関する知識エリアが新設された。本発表では、ネットワーク分析手法を用いてコミュニケーションマネジメント知識エリアにおけるマネジメント経路の可視化を試みるとともに、その結果を基にしてPMBOKを学ぶための教材の要件について考察した結果について報告する。
キーワード：PMBOK, マネジメントプロセス, データフロー, ネットワーク分析

1. はじめに

プロジェクトマネジメント知識体系(PMBOK)第4版では42個のプロジェクトマネジメント(PM)プロセスについて、プロセスの3つの構成要素(インプット・ツールとスキル・アウトプット)の内容を詳細に述べるとともに、それぞれのプロセスを起点にしたデータフローが併記されている[1]。著者はこれまでに、このデータフローを基にして、42個のプロジェクトマネジメントプロセスのネットワーク構造を可視化できること、ならびに特定のPM要素がPMプロセスの相互作用に与える影響度や重要度を解析的に求めることが可能であることを述べてきた[2]。

しかしながら、そのネットワーク図は42個のマネジメントプロセス間の一次的な結びつきだけを見ているのに過ぎない。そこで、本研究では、データフローに基づく分析を拡張し、各マネジメント知識エリア全体におけるマネジメントデータ(各プロセスのインプットやアウトプットの要素を総称してマネジメントデータと記述する)の流れ・受け渡しを考慮しながらエリアにまたがるデータフローを描くことによって、その知識エリアにおけるマネジメントフローの可視化を試みる。さらに、可視化されたマネジメントフローをベースにした相互リンク構造を有する教材の開発に取り組む。

2. ネットワーク分析による構造の可視化

PMBOK第4版では、プロセス間の関係は当該プロセスを起点とするデータフローとして示されている。例えば、【10.1 ステークホルダー特定】プロセス(図1)の

アウトプットである『ステークホルダー登録簿』は、【4.1 プロジェクト憲章作成】プロセスからマネジメントデータとして受け取るプロジェクト憲章を参照しながら作成し、【11.2 リスク特定】プロセスのインプットになっている。このような【プロセス】を起点する前後関係は、プロセスとデータフローをノードとリンクに対応させることによってネットワークとして示すことができる[2]。

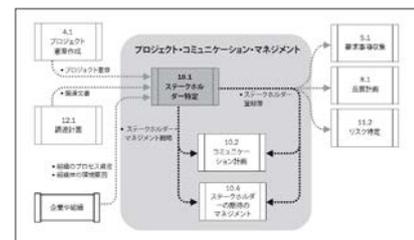


図1 【ステークホルダー特定】プロセスのデータフロー

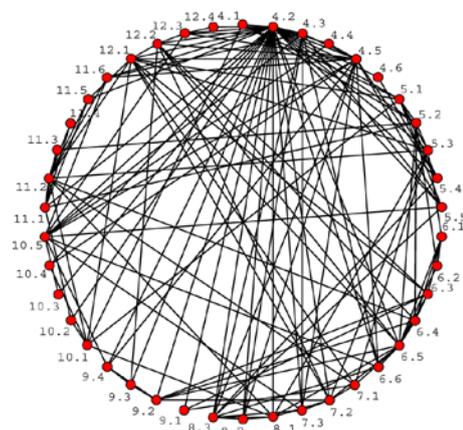


図2 PMBOKの42個のプロセスに対応するネットワーク図

3. マネジメント経路の分析

図2は、PMBOK全体として42個のプロセス間の直接的な相互関係およびプロセスの密度を可視化したものであり、プロセスの経路を表すものではない。そこで、プロセスのデータフローとマネジメントデータの対応を一つずつたどることによって、当該プロセスを経由するマネジメント経路を描き出すことが可能になる。

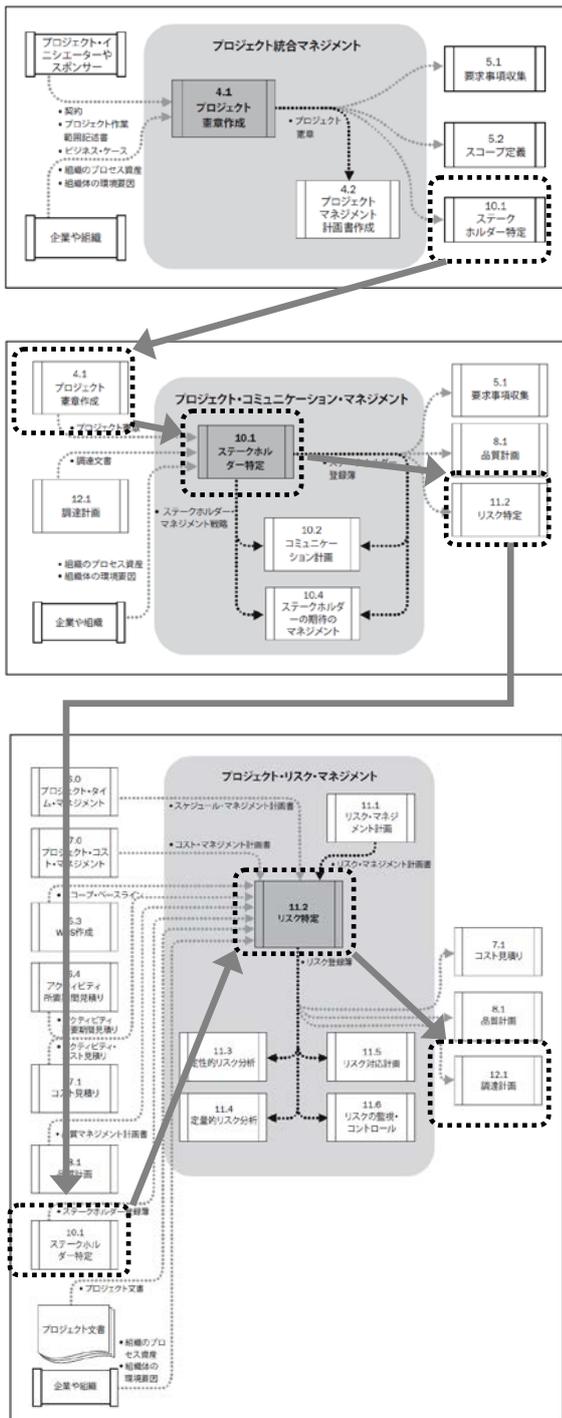


図3 【ステークホルダー特定】プロセスを起点とするマネジメント経路の一つ

コミュニケーションマネジメント知識エリアにおける5つのプロセスと関連するプロセスにおける直接的なネットワーク関係を経路図として描画した例を図3に示す。図3は、図2に示したPMBOKのネットワーク図におけるコミュニケーションマネジメントのノード(10.1から10.5)とリンクしている紐帯をプロセスマップ上に描いたものに対応する。

この直接的な相互作用にマネジメントデータの流れを考慮しプロセス間の結びつきを一本ずつ辿ることによって、プロセスの経路を記述することが可能になる。たとえば、【ステークホルダー特定】プロセスを起点とするマネジメント経路のひとつは、【4.1 プロジェクト憲章作成】→(プロジェクト憲章)→【10.1 ステークホルダー特定】→(ステークホルダー登録簿)→【11.2 リスク特定】→(リスク登録簿)→【12.2 調達計画】という経路である(図3)。このようにしてコミュニケーションマネジメント知識エリアにおけるマネジメント経路を推定し描画した結果を図4に示す。

この結果を基にして、マネジメント経路を可視化する補助教材の要件を検討する。

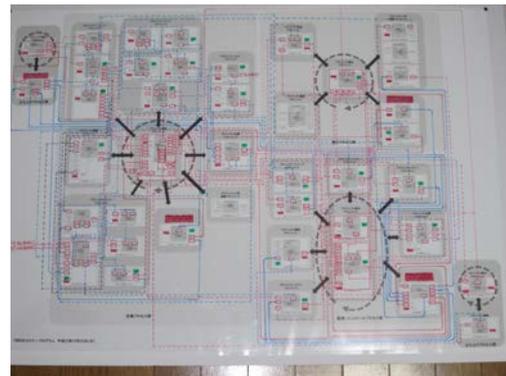


図4 コミュニケーションマネジメント知識エリアにおけるマネジメント経路

4. まとめ

PMBOK第4版のデータフローチャートに基づいて、5つのプロセス群と9つの知識エリアに対応するプロセスマップを作成し、コミュニケーションマネジメント知識エリアにおけるマネジメント経路の可視化を試みるとともに、マネジメント経路を可視化する補助教材の要件を検討した。

参考文献

[1] PMI, (2009) : PMOB 第4版日本語版, PMI (ペンシルベニア) ISBN-10: 1933890681
[2] PM学会 春季大会, 大島直樹, PM11S-P.92, 「『プロジェクト文書』がプロジェクトマネジメントプロセスの相互作用に与える影響度の分析」